

響和会会報



藝高 Acanthus

2009年秋 第4号

編集・発行 東京芸術大学音楽学部附属音楽高等学校 韶和会
〒110-8714 東京都台東区上野公園12-8
TEL. 050-5525-2406 FAX. 050-5525-2530



「第21回 芸高定期演奏会」

音楽する喜びに満ち溢れたステージ 邦楽、バッハ、メンデルスゾーンの演奏に感動の大拍手

本校の年間行事の中でのメインイベントである第21回定期演奏会が平成21年10月31日(土)、東京芸術大学奏楽堂で行われました。指揮は世界的バッハの権威、鈴木雅明東京芸大教授。定演には毎年著名な指揮者を迎え、全校生徒が一丸となって合奏、オーケストラ、合唱の大曲に挑戦します。今年も会場はほぼ満員。希望者が入りきれないため昨年からゲネプロも一般公開されています。開演前のロビーコンサートでは、ハープ専攻の生徒によるグラナドス「スペイン舞曲 第5番」、トーマス「コンブリア デュオ」が演奏されました。

第1部の邦楽合奏では、宮城道雄「飛鳥の夢」、三世杵屋正治郎「花見踊」。第2部ではバッハ「ミサト長調 BWV236」より4曲、メンデルスゾーン「交響曲 第4番 イタリア」が演奏されました。合唱はオーケストラ演奏者以外全員が受け持ち、専門外の声楽でも音楽レベルの高さを見せてくれました。卒業生の保護者で、ある音楽雑誌の編集長は「日本の高校生の演奏技術がどれだけ高いかを認識できる最上のステージが芸高の定期演奏会だと思います。しかも指揮はバロック&声楽分野で世界最高峰の鈴木雅明さん。彼が芸高生の力をどこまで引き出すかとても楽しみでした。熱気に満ちた今日の演奏はプロのそれとは一味違う。感動しました。」と興奮気味に話していました。

定演を終えて



本番2週間前、さまざまな行事で曲の仕上がりは遅れ気味でした。
全員に焦りが感じられた頃、台風18号で休校、更に新型インフルエンザで4日間休校。
でもその後の追い込みは驚異的でした。
「この集中力と頑張りが芸高生の底力、特徴です」(粕谷校長)。
「直前の大流行、前週の休校のことを思うと、奇跡です」(養護教諭)。

生徒の声を集めました。



「生徒自作のアカンサスプログラムより」



- 最上級生としての最後の定演は、インフルエンザで練習日程の不安を感じながらも素晴らしい演奏が出来たのではないかと思います。倉富亮太(Vn コンマス)
- 「常に新鮮な気持ちで音楽をしよう」という言葉の通り鈴木先生は本番でも一瞬一瞬新しい閃きを私たちに伝えて下さいました。生き続ける作品の生涯に触れた極上の空間でした。藤原晶世(Vn コンミス)
- 練習時間も少なく大変なことも多少ありましたが、鈴木先生のご指導のもとみんなで頑張って心に残る演奏会になりました。永井怜奈(Fg インペク)
- 授業がつぶれてしまったりしましたが、それでもめげずに最後はみんなで協力して練習できたことがすごく嬉しかったです。加藤綺乃(Vn サブインペク)
- 思うように練習できない中、みんなが協力してくれたおかげでいい演奏をすることができました。石井敏貴(Pf 合唱インペク)
- 合わせる時間や先生に見てもらう時間が減りました。そして先生に初めて見てもらったとき先生は固まってしまいました。「これではまずい」と思い毎日のようにみんなで練習しました。その結果、本番では今まで一番の出来でリズムもよく最高の思い出になりました。生徒会長藤井愛生(長唄三味線 邦楽)
- 第6人尺八3人という過去最多人数での舞台で人数が多い分例年以上に合わせるのに苦労しましたが、本番はその成果を発揮できたので良かったです。井本早紀(尺八)

- とても楽しい本番でした。練習や合わせの回数が大幅に減り、休校の間はとても不安でした。しかし、鈴木雅明先生のご指導により、日に日に見えて上達し、本番ではみんなの気持ちが合わさって本当に素晴らしい演奏会になりました。一生の記憶に残る感動を体験できました!唐沢萌香(声楽ソリスト・ソプラノパートリーダー)
- 最後の定期演奏会で鈴木先生の指揮と芸高オケでソリストをさせていただけ光榮です。本当にすばらしい演奏会でした!ありがとうございました。斎藤舞(声楽合唱ソリスト)



鈴木先生による前日練習を授業参観



超満員のロビーコンサート

～生徒から聞いた、打上げでの鈴木先生のお言葉です。～

- *大人の方には注意しても手遅れの部分がありますが、10代の時に言ってあげたいことが今回言えたので満足。
- *今回のバッハは演奏される事の少ない曲で、しかも難しい曲ですが、だからこそ今年の経験は貴重だったのではないかと思う。
- *とても新鮮だった。みんなの顔がよく見えて、普通のオケだと弦楽器の一番後ろの人と目が合うことはまず無いけれど、今回みんなと目が沢山合って嬉しかった。
- *今年の経験は貴重だったのではないかと思う。合唱では、子音の発音難しかったね。客席との時差もあるし。とにかく本番でとても盛り上がり上げてよかったです。

最後に粕谷校長先生から「世界の鈴木先生から少しでも御褒めの言葉を頂けてそれだけあなたの方は最高です。」との言葉も頂いたそうです。



校章は『樂』でも授業は『嚴』。そんな芸高生のオアシス紹介

図書室の開館時間は月～金11：00～17：00です。休みは土日祝日、長期休みの期間です。



司書の今瀬由香さんに聞きました。

一日の利用人数は？ 20～30人、本やCDの貸し出し以外にレッスンまでの時間待ち、PCを使う、雑誌を読む、友達とおしゃべりなど。人によって使い方は様々で、2、3時間パソコンをやっている子もいれば、CDを聴きくる子もいます。

保護者への貸し出しは？
できますがあまりいらっしゃいませんね。生徒を通じて借りられる方もあります。図書室での勤務は初めてです。以前は雑誌の仕事で特集や広告企画、編集をしていました。どんな「図書室」が良いのか、生徒にすすめられた本を読んでみたり、先生と相談したり生徒とかかわりながら、「利用者目線」で図書室のあり方を模索しています。先生方や生徒がふらっと立ち寄ってくつろいでもらえる場所として利用してほしい。と思って図書だよりを発信しています。リクエストについて年に4回購入機会があるので、皆さんもっとリクエストしてほしいです。



今後の「野望」としては、貴重なレコードが沢山あるのでCDに焼き直して皆に聞いてもらいたい。実は人見知りで、着任した頃は生徒と接するのが怖かったんです！ どういう風にコミュニケーションすればいいか悩みました。手探りでやって行く中、図書だよりを発信しようと決意し、生徒たちから「最近図書室が居心地が良いんだ！」『図書室に来るのが好きになった』と聞こえてくるようになりました。とてもうれしいです！

お話を聞いた私もとても有り難いと思いました。生徒とかかわりながら意見や希望を吸い上げて下さり、図書室がホッと出来る憩いの空間になっている事をうれしく思いました。(n)

芸高・芸大先生方と保護者との懇親会 宮田学長も参加し和やかに

6月22日、午後5時半から、恒例の芸高・芸大の先生方と保護者との懇親会が芸大キャンパスのキャッスル食堂で開催されました。当日は、成田響和会会長が挨拶。柏谷校長、植田学部長、渡邊副学長、木部副校長のおことばを頂戴しました。また宴半ば芸高先生方一人ひとりの自己紹介の後、宮田芸大学長のお話を伺うことができました。

懇親会には芸高的先生方はもちろん、芸大的先生も参加されます。保護者が直接多くの先生とお話ができる、唯一の貴重な機会です。さらに今回は初めての試みとして生徒の様々な学校での様子を写真で見せる「芸高生活写真展」が同じ会場で行われました。(M)

玉手箱の様な――

宮田学長から「藝高 Acanthus」に対して、こんなコメントをいただきました。

「学校内における生徒達の日々の姿や先生方のご指導、また保護者の皆様の思いなど、次世代を受け継ぐ若者達に共通の願いとして託す様々な事柄が、玉手箱を開いたように展開されているこの広報誌はとても意義深いものであり、そして伝えることの大切さが込められています。生徒達の溢れんばかりの素晴らしい魅力を、世の多くの人々に伝える為にも、東京芸術大学附属高校の益々の発展を祈っています。」



発刊ホヤホヤの「Acanthus 3号」を手にして宮田芸大学長登場。
開口一番「これいいねえ～。」

保健室は、芸高2年目の風間理絵先生が、守って下さっています。

四人のお子さんの母でもある先生は、母親になってからのほうが生徒や保護者の気持ちが分かるようになり、仕事もやりやすくなつたとか…。



「私が失敗して子ども達に愚痴を聞いてもらうこともあるんです。逆に励まされるんですよ」という風間先生。

「15歳で進路を決めて進学してきた子ども達、我が校は全国区のため、親元を離れて、入学した生徒も、たくさんいます。その子達を含めた生徒達と接していると、病気や怪我等よりも、精神的ケアが多いように思います。地方からの生徒は、自宅に帰っても、会話をする相手が居ない時もあるんですよね。そんな時は、保健室で、相手をすることもあります。

今、保健室には、三つのベッドがあります。睡眠不足の時には、授業に支障のない範囲で使って良い事にしています。休み時間や、昼休みに、仮眠をとりにくる生徒もいます。

音楽の事は、全く分かりませんが、本番前に元気のない生徒が、ステージで立派に演奏している姿を見ると感動します。

ある意味、エンドレスの課題を常にこなしている生徒達の気持ちを考えると、彼等が少しでもくつろげる空間であれば良いと、思っています。」



前任の岡崎先生が考案した「なんでも帳」は、生徒間での読み書きが約束で5年目の今では、31号になりました。「子ども達は、絵も上手いんですよね！」と、内緒で、表紙を撮らせて頂きました。(U)

風間先生から――

「せっかく学校に来た時には、ちらっとでも保健室に寄っていい下さい！ 親子で一緒に味わった体験や親御さんの思いを、是非、お聞かせ下さい！ とても楽しみにしています。」

最後の保護者会と卒業を……

定演の前日は、恒例の授業参観と保護者会。3年生保護者にとっては幼稚園から始まって子育て最後の保護者会となり33名もの参加。担任の大平先生を囲む茶話会には、役員さんが美味しいお菓子をご準備。

九州から北海道まで、文字通り各地から集まった保護者は日頃の苦労や悩みを語りあいました。子どもに1人暮らしをさせるつらさや、音楽の道でよいのかと悩む親心を話すうちに、つい涙もろくなったりました。

親以上に真剣に子どもに向かってくださる大平先生にも、次回お目にかかるのは3月11日の卒業式。式では一人ひとりに校長先生から卒業証書が手渡しされるそうです。

3年役員はさっそく「卒業を祝う会」を企画。子ども達が無事に卒業する日を心待ちにしています。「卒業を祝う会」は卒業式の午後、大学構内のキャッスル食堂で行われる予定です。(N)





♪2年生演奏修学旅行は長崎へ

校内の事前演奏会を終え、9月29日より演奏修学旅行へ行つきました。今回は長崎県、活水学院 東山キャンパス 大チャペルにて、音楽コース



の高校生との交流演奏会が行われました。(写真右下)

翌日より、長崎市内の見学や、被爆者からの貴重な被爆体験を聞くなど、価値のある平和学習となりました。そして、生憎の雨ではありましたが、お楽しみのハウステンボスを回遊し、盛りだくさんの修学旅行を終えました。

現地での演奏にお力添え頂きました方々に、厚く御礼申し上げます。(Y)



♪第二回 輝く☆未来の星 コンサート

東京都北区の「北とぴあ」にて、「輝く☆未来の星コンサート」が行われました。今回も幅広い年齢の交流演奏会となり、芸高の生徒達には貴重な場



指揮は木部敏司副校長

を与えさせていただきました。北区のスタッフの皆様方のお心遣いには大変感謝しております。たくさんのお客様の拍手を頂き、小、中、高と音楽に向かう子ども達の姿を見ていますと、「月日の経つのは早いな」と感動した、貴重な時間となりました。(m)

♪今年も意欲的なプログラムが目白押し ・・・生徒自主運営のアカンサスコンサート

今年も5月、7月、11月、12月に4回アカンサスコンサートが行われています。生徒達が自主的に室内楽のグループを組み、練習し、申込みをして選ばれたグループが出演することができます。曲も弦楽アンサンブルやピアノ連弾、管楽アンサンブル、邦楽等々、様々な曲が演奏されます。中には作曲科の生徒の初演作品や声楽・語り入りの曲も・・・コンサートの練習も基本的に自分たちでやり、コンサートの準備、当日の運営も生徒のアカンサス委員がすべて行っています。自分たちの今やりたい曲を気の合う仲間達と真剣に取り組める素晴らしい機会であり、音楽にかける喜びや若さあふれる情熱が毎回ステージではじけます。今しか聴けないフレッシュな演奏をもっともっと多くの方に聴いていただき感動を分かち合っていただければ、と思います。(N)



♪本人より親が緊張する公開実技試験

公開実技試験は、毎年6月下旬に奏楽堂と201ホールで行われます。3年生前期の専攻実技試験で、3年間で唯一公開される試験です。

本当に速いものです。今回わが子の試験の日となりました。お母様方と一緒に席に座り、子ども達の出番が来るたびに、親も一緒になり、なぜかとにかく暑い。上着も着ていられないくらい！それが皆さん同じ状態です！後の席におられる先生方も気になります。演奏が終わった後は涙・涙。親同士の一体感でさらに感動です。良くできた、できないは後からかな？「ありがとう」という感じでした。一段階終了。

「次のステップに踏み出した」と実感する、身の引き締まる一日でした。(母)

(テニガ)

♪「テニス合宿」でオリエンテーリングやきもだめしも



「テニガ」とは「芸高用語」の中でも難易度は高い方で、「テニス合宿」のこと。

今年は7月13日から恒例の夏合宿が始まり、生徒たちは長野県の菅平高原で充実した3日間を過ごしました。ホテル到着後さっそく隣接のコートに向かい、初日は夕暮れまでテニス練習に励みました。夜になると空は星が輝き美しい天体ショー。しかし地上では生徒会渾身の企画「きもだめし大会」が！日頃はホラーが平気という生徒も怯えるほど、真にせまる迫力でした。昼は爽やかな汗と元気なかけ声、夜は恐怖に震える冷や汗と大絶叫・・・どちらも水分補給が欠かせません(?)。2日目の午後はオリエンテーリング競技を行なわれました。最終日にはテニス試合で練習の成果を披露。

元気さをアピールできた1年生、楽しさ倍増の合宿を満喫する2年生、高校最後の夏を大切な仲間と過ごす3年生・・・それぞれの思いを胸に、生徒たちはかけがえのない友情ときずなを分かち合い、明日へのパワーチャージが出来たのではないでしょうか。(A)

♪世界的ヴァイオリニストによる公開レッスン



7月7日英国王立音楽院、英国王立ノーザン音楽大学のリチャード・ディーキン教授による公開レッスンが行われました。今回は、3年の岡谷恵光さんがシベリウス「ヴァイオリン協奏曲Op.47第1楽章」、3年の二瓶真悠さんがサラサーテ「カルメン幻想曲Op.25」、3年の藤原晶世さんがバガニーニ「ヴァイオリン協奏曲No.1 Op.6第1楽章」をそれぞれ感

情豊かに演奏し、先生から3人ともすばらしいというお言葉をいただきました。「皆が同じ音でなくていい」と個性を認めてくださいながらも、「弓の中に空気を入れるように弓を置く場所を考えなさい、そうすると音色が違う」「ヘリコブターの着地ではなく、飛行機の着地のように弓を置きなさい」と弓の持ち方やあて方を実際に先生が見せてくださいました。先生は、生徒たちに、ぜひ、海外の学校や講習会にも出掛け、音楽はもちろん、それ以外のことでも吸収してほしいとおっしゃっていました。(H)

編集後記

「芸高の発信基地」として昨年始まった広報紙、アカンサスを引き継ぎ葛藤の一年。子供達の行事や学校案内等をおわざりましたが、めぐるしいその忙しさに、ビックリでした。より良い環境作りを目指す先生達の奮闘ぶりも感動でした。保護者と生徒、先生とそれを見守る回りの方々の信頼関係を深める「玉手箱」として、この広報紙の発展を切望致します。「芸高を100倍楽しむ方法」すなわち、「広報委員会」を実感した1年間でした。こんな機会が得られたことに感謝します。2009年度広報委員一同。

会長：成田 しのぶ

副会長：村澤 かり、有馬 玲子

広報委員：岡田 充子、永井 美和、内山 由香(副委員長)、永井 久美子(副委員長)、森田 審晴(委員長)、山内 郁子、浅原 裕子、新井 奈由美、林 俊子

芸高URL：<http://www.geidai.ac.jp/geiko/>